

【参考資料1】 県中教研学力調査の意義と目的

1 県中教研学力調査の取り組みの歴史

○昭和38年11月 国語、理科（3年）

英語聞き取りテスト（2・3年希望者）年3回

※文部省の学力調査（昭和36～41年）では、本県の学力水準が他県に比べ高い結果を示しているが、追跡調査の結果では必ずしも満足すべき状態ではない。そこで、記述方式も加えて本県独自の学力調査を実施し、応答の結果を詳細に分析し、学習指導改善の資料とすることとした。

○昭和39年11月 社会、数学（2年）

英語聞き取りテスト（2・3年希望者）年3回

○昭和40年11月 国、社、数、理、英の5教科（2年）

英語聞き取りテスト（2・3年希望者）年3回

○昭和41年11月 5教科（全学年）……3年のみ2回（7月、11月）

英語聞き取りテスト（2・3年希望者）年3回

○昭和42年 英語聞き取りテストを英語の学力調査に吸収

○昭和46年～ 1年1回（11月） 2・3年2回（4月・11月）

国語聞き取りテスト（昭和46年～48年）

※2・3年2回について

⇒指導改善研究のための実態把握と変容、結果の検討を同年度内にという必要感から実施することとなった。

2 学力調査のねらいと性格の変遷

◇昭和50年 ※既習の学習内容について、生徒のつまづきや困難点等の実態をとらえ、指導の改善に役立てあわせて研究活動の参考に資する。

◇昭和54年 ※中教研研究部の研究内容と関連させ、教科の各領域の基礎的・基本的事項に関する生徒の学力の実態を把握し、今後の指導並びに研究活動の参考に資する。

◇昭和55年（1）各教科の領域ごとの基礎的・基本的事項に関する生徒の学力の実態や水準をとらえ、今後の指導計画や指導方法の改善に資する。

（2）県中教研の研究に必要なねらいと内容をもった調査を実施し、研究を推進する資料とする。

◇昭和63年（1）教科の基礎的・基本的な内容について、一人一人の生徒の学習状況を各評価観点からとらえ、指導計画や指導方法の改善に資する。

（2）中教研の研究内容との関連を考慮した調査を実施し、研究を推進する資料とする。

- ◇平成21年（1）県中教研の研究主題および研究内容との関連性を考慮した調査を実施し、研究を推進する資料とする。
- （2）教科の学習内容について、生徒一人一人の学習の実現状況を各評価の観点からとらえるとともに、調査内容S-P表等の活用で分析し、指導計画や指導方法の改善に資する。

- ◇平成23年（1）県中教研の研究主題及び研究内容との関連性(トライアングル)を考慮した調査を実施し、研究を推進する資料とする。
- （2）教科の学習内容について、生徒一人一人の学習の実現状況を各評価の観点からとらえるとともに、調査結果をS-P表等の活用で分析し、指導計画や指導方法の改善に資する。

※23年度より4、11月調査ともに「分析・考察」を行うこととなった。

県中教研では、昭和49年度より数回の学力調査特別委員会（事業改善検討委員会）を設け、学力調査のねらいと性格、問題点と改善の方策などについて検討を図ってきた。また、昭和54年度には、各教科の基礎的・基本的事項に関する生徒の学力の実態を把握して、指導改善の資料とすることを明確にしている。昭和63年度からは、「新しい学力観」の立場に立ち、観点別学習状況の評価を踏まえた作問を行ってきた。

現在の学力調査実施計画は、こういった長年の検討の結果として集約されたものである。